

講演

学 校 名 大磯高等学校PTA

研究テーマ 『HUB a Good Time～産官学民をつなぐ青春応援隊！～』

～Introduce～

【大磯町とは】

大磯高校がある大磯町は人口約3万人という小規模市町村ながら、温暖な避暑地として栄えた場所でもあります。歴史を見ると、「湘南」発祥の碑が残る風光明媚な地であり、東海道五十三次8番目の宿場町として栄えました。初代総理大臣伊藤博文をはじめとした歴代総理大臣や歴史上重要な役割を果たした偉人の住居が多く残ります。代表的な観光資源である大磯ロングビーチは、毎年近隣地域はもとより遠方からも多くの観光客を迎えます。そこからいかに過去も現在も大磯町が過ごしやすい地域であるかが伺えます。

行政の動きとしても機に敏であり、災害時における企業宿泊施設利活用やドローンを使った物資運搬、生存者確認の協定を結ぶなど住民第一の前衛的な取り組みを行っております

【大磯高等学校とは】

昭和2年4月10日大磯町立大磯実科高等女学校として開校をした本校は、昭和26年4月より現神奈川県立大磯高等学校として今に至ります。南には相模湾を一望し、東には丹沢山系を水源とする花水川、北には有名なデートスポットである湘南平を含む高麗山を臨む自然に恵まれた場所にあります。令和6年度には、来るべき100周年に向け学校制服をモデルチェンジいたしました。グローバル教育推進校として留学生と共に学ぶ機会や、地域企業や行政の取り組みを知る有識者の講演、オーストラリア研修旅行等を行っております。「自主自律」を校風とする開かれた環境に加え、魅力的な新しい取り組みの結果、近年では入学希望者が増加し「行ける学校」から「行きたい学校」への変化が見られます。

～PTA Works～

私たちは「子どもたちの青春応援隊！」

・学年委員会

駿台予備校等の学習機関と連携し、最新の受験情報や傾向、学校の指導状況についての共有を目的として保護者向けに年2～3回の進路説明会や教員との懇親会を開催しています。保護者世代との受験システムの違いや難易度の違いを理解いただき生徒の進学環境面でのサポートを行います。

・環境整備委員会

校内に点在する花壇一つひとつを我が子のように育てております。保護者に向け卒業式でも使用できるコサージュ製作教室の開催や、地域生花店と協力し、多肉ポットや苗・花束の販売を行いました。学校生活に「華」を添え、生徒、保護者の心を整える活動を行っております。

・成人教育委員会

大人のための活動を。学び舎として3年間もの時間を過ごす大磯という地域を知っていただく企画を創っています。恒例の「大磯さんぽ」では、ガイドと共に大磯の歴史ある史跡を巡ることで親子に郷土愛を醸成する機会を提供しています。また体験会やランチ会の企画等保護者皆様の視野を拡げ、つながりを増やす企画も行っています。

・広報委員会

一般非公開の体育祭・文化祭、球技会や講演会など生徒の姿を一番近くで見守ることができる委員会です。学校の生活や情報を広報誌や映像で伝えています。近年では、県P大会で学んだ広報誌の書き方を全広報委員に広め、書き手目線から読み手目線の広報誌へと進化をしています。海鳴祭体育祭では地域企業と連携の上ドローンを用いて撮影をし、より臨場感のある映像を記録として残し、文化祭にて来場者へ上映をいたしました。

・交通安全委員会

大磯高校では通学において約7割の生徒が自転車を使用しているため、先生や地域自治体と協力をして交通指導や見守りを定期的に行っております。危険箇所の集約を行い生徒に伝えることで交通安全への意識を高めます。

また生徒や保護者、地域自治体を対象にしたスケアードストレートを実施し、事故の恐怖や交通用具を扱う責任を体感いたしました。この結果として、地域の方々からも「横並び運転が減った」「ながら運転が減った」という声がすぐに上がって来るといった結果になりました。

・本部

近年PCやWi-Fiを導入し、各委員会活動の効率化を図りました。

体育祭や文化祭PTA模擬店の運営統括に加え、伝統行事として毎年海の日に行っている「海岸清掃」を行っています。学校から海までの距離が県内二番目に近い大磯高校では、第二のグラウンドと称する大磯海岸という資源を護るために教師、

保護者、生徒の皆様、地域自治会の皆様とともに活動を行っております。

また、文化祭の初日に生徒実行委員会主催で開催をする中夜祭では、PTA からサプライズとしてお笑い芸人をゲストに招きました。令和5年度はキングオブコントのファイナリストである「クロコップ」、令和6年度はNHK でもおなじみの「いっつもここから」によるステージを設えました。

～Initiative～

① 【PTA 活動の透明化】

任意団体だからこそ、学校や行政だけではできないことができるという PR に加え、PTA 会費で行えた活動紹介、各委員会の活動日や頻度、活動内容をまとめた冊子を入学者説明会に向けて作成しました。紹介動画も作成し、二次元コードで閲覧できるようにすることで PTA 活動の雰囲気を知り、「やらされる」ではなく「やりたい」PTA となるよう取り組んでおります。また、PTA 意識アンケートを活用し、自主的に参画を決めてもらう取り組みをおこなっています。さらに、学校への問い合わせの際、教員の皆様からも活動の多様さや加入メリットをお伝えいただくなど、学校とも協働の活動を実施しております。結果、本校の PTA 加入率はほぼ 100%となっています。

② 【生徒会とのつながり】

活動を行うために、重要となるのは我々 PTA の判断や満足ではなく、生徒が感じている問題や望みを知り具現化していくことだと考え、生徒会との意見交換を行いました。PTA がかなえられること、学校がかなえられること、地域がかなえられること、県がかなえられることに仕分けをし、まなびや基金の活用や、町長への直談判などそれぞれへの連携や進言を PTA がハブとなって進めています。



③ 【産官学民とのつながり】

3-1 県立高等学校の管轄は県、という縦割りの考え方からどうしても所在する市町村役所との関係はうやむやになりがちです。行政に活動方針の共有と、事業計画へのご理解をいただくことで活動規模と可能性を今まで以上に広げることが

目的に、大磯町長へ表敬訪問を行いました。成果物として、町長の学校での講演や、宿泊研修、さらに大磯警察署より交通安全教室の開催依頼をいただいております。

3-2 大磯町に隣接する平塚市は、大磯高校の通う半数以上の生徒が居とする地域です。東海大学はその平塚市に本校を構える唯一の大学です。進学意欲の向上と、スポーツの振興を目指し、東海大学バスケットボール部に男女バスケットボール部へのクリニックを行っていただきました。今後は他の部活動や学習面でも関わりを続けさせていただけることを共有いたしました。地域の教育機関と連携を深めることにより、学習面、運動面での学びをより高い位置で享受できる環境を整え、生徒たち自らの経験を以って未来を選べる機会を創っていきます。

3-3 大磯高校と相模湾は隣り合わせの存在です。また大磯高校は敷地内を用水路が横切っているなど、水害と密接な関係であると言っても過言ではありません。

小中学校と異なり、遠方から通う生徒が多い中、帰宅困難者への対応のために大磯高校と大磯町でノジマ電器の研修施設であるノジマ大磯スクウェアの使用協定を結びました。これにより、帰宅困難者が危険の可能性が残る中無理に帰宅をする、街灯のなくなった夜道を帰るなどの二次災害の可能性を取り除くことができます。有事に先駆けて、PTA と生徒有志にて大磯町災害対策課との協働事業としてノジマ大磯スクウェアでの防災宿泊研修を行い、大磯町での災害についての講演や避難所の設営、さらにまちを歩いての学習を行いました。消火訓練や自ら火を起こしての備蓄食料の実食を行い災害時の体験いたしました。地域を知り、地域と共に生き抜くための原体験を重ね災害に対して強靱な体制を創ってまいります。

～Towards The Future～

【創立100周年に向けて】

大磯高校は、令和8年度に創立100周年を迎え、翌令和9年度には式典・記念事業控えております。PTA では本年より大磯高校スポーツタオルを作成販売し100周年に向けた積立金として計上、また地域の歴史ある和菓子屋新杵様と協力し、記念干菓子の作成に向かっています。

生徒はもとより、保護者の皆様、地域の皆様が一様に約17000人の卒業生が築いてくれたこの大磯高校を誇りに思っただけ、そんな活動を展開してまいります。

我々PTA は、産官学民全てをつなぐハブとして、生徒たちにより良い3年間という時間を過ごしていただくよう取り組んでいきます！

HUB a Good Time !